

大阪府認可外保育施設職員研修

多種多様な子どもたちとの 接し方について

一般社団法人子どもの森
大阪総合保育大学非常勤講師
西岡 光代

現代の子育て社会の課題

子どもの現状の変化

早期に現れる学級崩壊

すぐにキレル子ども、発達のゆがみ、テレビやネットの過視聴
食事や睡眠等生活リズムの乱れ、遊びの変化等により、
乳児期から現れる心身の発達のゆがみ



家庭だけでは補えない子どもの成長発達のサポートを保育施設が
担うことが求められている
家庭や地域での生活も含めた子どものトータルな生活を充実させる
ことが必要

今必要とされている保育者の資質

- ・ 発達のそれぞれの時期で、欠かすことのできない経験を踏まえ
その中で、何が育ってきているのかを捉える専門性
- ・ 一人ひとりの発達の課題に即して、子どもに適切に対応する
乳幼児理解や保育技術
- ・ 障害や発達障害等、子どもの生まれ持った発達の課題に対する
理解と対応力
- ・ 外国籍の子どもを含め、子どもを取り巻く保護者や家庭に
対する子育て支援や家庭支援
- ・ 日々、自己研鑽し、資質能力の向上に努める努力する姿勢

◎今までの生活を振り返ってみましょう

人を育てる仕事に就くときに、自分自身を知ることの大切さ

- ・ 家族（父や母、祖父母等）との関係はどうだったのか
- ・ 保育所や幼稚園、学校等での思い出は、プラスのものとマイナスのもの、
どちらが強く心に残っているのか
- ・ 「すごいなあ」と思ったときに相手にそれを伝えることができていたのか
- ・ 「それは違う」と感じたときに言葉や態度で伝えることができていたのか
- ・ また、あなたが抱いた様々な感情を受け止めてくれる人は、側にいたのか
- ・ どんなことを言われると嬉しい気持ちになるのか
どんなことを言われると辛く悲しい気持ちになるのか

いじめや暴力、子どもの自殺、親の生活の不安定さからくる生活苦や子ども虐待。
人権意識の希薄さから子どもの命、安全すら危なくなっている。
SNSを通じての子どもの性被害も連日報道されている。

こんな日常の中で

「ヒトとして大事にされる」＝「人権」
の視点を育むのは小学校に上がってからではない。

人権の視点は、乳児期からの保育の中の実践で
豊かにし、子ども達が自他共に尊重する心や行動を
育てていくことが大事。

保育者が子どもを大切にしている、と思って日々保育をしているが、保育者として
大事にすることは「子どもへの差別」という視点。



人権を大切にする保育・教育は子どもと保育者・指導者との
やり取りが土台となる。

子どもの意思に沿って必要な援助がなされ、
子どもの自己活動・自己実現を尊重する
保育がなされているか考えることが人権保育
のスタート。

子どもの理解から出発する保育

◇ 保育という営みは、

「子どもをどう理解するか」ということから始まっていく
一人一人の子どもにどのように関わり、
どのような育ちを願って援助していくのか



目の前の子どもをどのように捉え、その姿や行為に
どのような意味を見出すことができるかによって変わってくる

指針改定により求められている「子どもの最善の利益」

「入所する子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に
増進することに最もふさわしい生活の場でなければならない」
さらに「保育所は子どもの人権に十分配慮するとともに、子ども
一人一人の人格を尊重し保育を行わなければならない」と記されて
いる。

「保育とは遊びを通して子どもの心情、知的、社会性、道徳性など総合的な発達を促すこと」

5領域：健康、人間関係、環境、言葉、表現で、種々の身体能力、
多様な人間関係を処理する力、環境を分析・総合的に認識
する力、言葉の力と言葉によるコミュニケーション力、
個性的で豊かな表現力等を身に付けるために心情・意欲・
態度を育てる。

「これができるようになる」という到達目標ではなく、
「～が好きになる」「～することに意欲が持てる」
という子どもの育ち、

「子ども主体の保育・教育」を目指す。

◎「保育」という営みを勘違いしていないか振り返る

- ・子どもに「～を教える」「～ができるように指導する」と大人の目線で考えるのではないということ。
- ・子ども自身の今の発達段階に合わせて考える。保育指針等で歳児としての子どもの姿はあるけど「できない子」という捉え方をしない。
- ・0歳、1歳、2歳で、言葉で表現することはまだ難しいけど、泣くということで伝えようとしていることを、「子どもの意見表明」と捉える素地が園にあるのか。
- ・保育者の「～させなければ」という思いと反する事であっても、どう受け止め、子どもにどう声をかけるのかを考えていく。

◎ありのままの姿を温かく受け止め見守る

保育者の価値観や基準で「望ましい」と思われる変化を求めてしまいがち。時として自分のもっている枠組みを外してみて、相手の状態をそのまま受け止めようとする努力も必要。

泣いていること、イヤだということ、したくないということ、「そうなんや」「なんでかなあ」と受け止めて一緒に考えていくことがスタート。

相手の心の動きに寄り添い、それに応答する

その時々の子どもの思いを敏感に感じとり共有しながら応答していくことで、子どもとの間に信頼関係を生み出す。

慌ただしく園のスケジュールで保育を進めるのではなく、一人ひとりの子どもの様子を見ながら保育を進める。

- ・一人ひとりの子どもの興味や関心をもっているものを知ろう。
この子は、今何を見ているのか。この伸ばした手で何をつかもうとしているのか。
ハイハイでどこに向かって行こうとしている？
「あっ、今、立ち上がった」その先に何があるから気持ちが動いたのかなあ？と
知ろうとする。
- ・保育はゆったり、ゆっくり子ども一人一人を知り、受け止め、子どもの気持ちを知ろうとすることからスタートする。
- ・保護者と朝離れるときに、どうしても長く泣いてしまう。落ち着くまで
抱っこして待ってあげることで良い。その先生を子どもが求めている間は、
固定の人で。でも色々な人から声をかけられる経験は積む。
- ・気になる子ども。何故気になるのか、自分のしょうとして
いることから外れているから？他の子と比べてしまうから
気になるのか？気になるなあ、と思ったときが子どもを見
つめ、子どもに寄り添い支援していくスタート。

- ▶ 乳幼児期に発達障害の可能性がある場合、社会性が芽生えるその時期に、発達
段階にあった適切な環境を整える事が大事。
- ▶ 診断がまだできない場合も、子どもの発達の特徴を保護者に伝えることで子育て
を応援し、子どもが過ごしやすい環境を整える事ができるようになる。
- ▶ 発達の特徴を親に伝える事が、障害のレッテルを貼ることではなく、より良い
成長発達のための親子支援のスタートと考える。
「保護者の子ども理解を促す」これが難しいけど！
以前に比べて療育や加配の配置、支援学級の在籍などを自分の子どもをしっかりと
見てもらえる、ということで受け入れる保護者は増えてきている。
まずは園で困っていることを保護者はどう関わっているのか聞いてみる。
保護者支援は指導ではなく子どもを真ん中に、園と保護者が
共に子育てできるよう、子育てが楽しいと思えるようにサ
ポートすること。

◎子どもの発達の特性を伝える

- ・保護者の不安を軽減「親の育て方の問題」「子どものわがまま」という考え方を修正。
- ・子ども理解と、それぞれの子どもに合った適切な関わりや子育て方法を共に考える。
- ・保護者の今の子育てを認め肯定することから、保護者の信頼を得て保護者への実践的な支援が開始できる。
- ・情報がいつでも手に入る今、全てが正しい情報とは限らない。ネットの情報を鵜呑みにしている方もいる。色々な生活スタイルはあるが、それをする事で子どもの育ちに悪影響がでると思われることについては保育の専門家としてアドバイスすることも必要。
その時はそれぞれの家庭の状況を考えて、「こうしないと」ではなく「こんな方法もあるよ」と伝え、どのやり方なら負担無くできるのかを想定し共に考える。
- ・何時までも哺乳瓶でのミルクやジュース、ゲームやYouTube。良くないことは分かっているけど、仕事を終えてすぐにご飯の準備や風呂、明日の準備…アツという間に寝かす時間。
私たちの声かけが、イライラを募らせることがないように、どんな方法なら少し頑張れるのかは、それぞれの家庭の事情によっても大きく変わってくるので、個々の家庭の子育てについての考え方やサポートしてくれる人が身近にいるのかなども知ることから。

一人ひとりを大切にする保育のポイント

- ▶ まず、その子の発達段階と特性を知ろう！
- ▶ 子どもの視点に立って困っていることに気づこう！
- ▶ 子ども自身が楽しめているかという視点を忘れない！
- ▶ 「～しないように」ではなく「できるためにどうするのか」と考える！
- ▶ うまいくための工夫を見つける！
- ▶ こちらが当たり前と思うことが当たり前ではない！
- ▶ 「普通」かどうかではなく、その子が「できていること」の確認をする！
- ▶ できないことを叱るのではなく、できたことを褒める！
- ▶ 成功体験や認めてもらう体験を積み重ね自己肯定感を高める！

○不器用さに注目する

手先の不器用さを伴うことが多い。
これは視覚と動作がうまくかみ合わないことから起こる。

- ・ハサミがうまく使えなくて、作品が完成しない
- ・おもちゃの片づけで壊したり、崩したりしてしまう 等

手先の器用さをゆっくり伸ばしていく。子どもが楽しみながらできることを第一に、スモールステップで困難さを軽減する。

○ストレスを軽減する

- ・「どうしてできないの？」と否定的な発言をしない
- ・今のありのままの子どもの姿を受け止める

「今できないと」ではない。
ストレスからチック、抜け毛、癬癩や粗暴な行動に出る場合もある。

思い当たる子、
いませんか？

困っている子を知ろう！

- | | |
|-----------------|---------------|
| ・ 待てない | ・ すぐに怒る、叩く、泣く |
| ・ 走り回る | ・ 何度も同じ事を繰り返す |
| ・ 座ってられない | ・ 視線が合いにくい |
| ・ 話を聞くことができない | ・ 落ち着きがない |
| ・ 不注意 | ・ 片付けられない |
| ・ 気持ちの切り替えができない | |
| ・ 一方的に話す | |
| ・ 体の使い方の不器用 など | |

保育の中で子どもにわかりやすい支援の実際

視覚支援の活用

×:言えば分かる

○:「言わなくても動ける」をめざした環境設定

理解を促し、指示待ちにならずに自発的に動けることが増える。
次に何をするのか、何時終わるのか分からなくて不安な気持ちを
軽減する。「また…」「何度言ったら…」は、子どもが理解でき
ていないことと捉えて視覚支援にチャレンジしてみる。

実際、視覚支援を使用する時は、言葉で言うのとは違い、事前に見せるものやカードの準備が必要

本人が見て理解できることが前提！

実物・写真・イラスト・文字など本人が理解できるもの

☆普段から身近なサポートツールとして、
デジタルカメラ、スマートフォンや筆記用具
などが利用しやすい

例えば外国籍の子どもや言葉の発達がゆっくりかなあと思う子どもや低年齢児など理解できない言葉をいくら聞いても、言葉を覚えませんが、言葉と一緒に視覚情報が提示されることで分かることが増える。

視覚支援に頼りすぎると、言葉が育たなくなるのかも…
というイメージとは真逆！むしろたくさんの事が育つ。

何を視覚化するのか

○生活技能

着脱、トイレ、食事、手伝い等

○社会生活技能

人との距離感、人の表情、マナー、コミュニケーション、ルール順番等

- ・保育の中でも「運動会に向けて」と話をしても、そもそも運動会を理解していない？どうしたらいい？万国旗が園庭にあるだけで当日園に入れない。
- ・「明日は遠足に行くよ」嬉しいこと喜ぶことと先生は思い込んでるけど、いつもと違うことに子どもは不安でいっぱい。
- ・運動会のビデオを見たり、バスの写真、行き先の写真など、子どもが理解できる方法で事前に予告しておくことが大切。

【困ったこと、あるある事例】

ケース1「衣服のボタンはめ」

～子どもの気持ち～

- ・「どこ持つの？」やり方がわからないよ
- ・「やってよ、できないよ」うまく手指操作ができない
- ・「あっちが気になる」「なんか聞こえてきた」「楽しそう」集中できない

～手立て～

- ・まずは机の上に置いてコインを取ることが出来るのか
物の持ち替えが出来るのか、発達段階的にこれができないと
ボタンは難しい
- ・手を添えて一緒にする
- ・周りを遮断した環境の中で衣服の着脱をする

ケース2「順番やルールが守れない」

～子どもの気持ち～

- ・「僕の番だぞ！」 交代や順番の理解ができていない
- ・「早くしたい！」 気持ちが抑えられない
- ・「僕もしたい！」 待てない、ルールの理解ができていない

～手立て～

- ・ルールをわかりやすく、視覚化して伝える工夫をする
- ・順番を見て分かるようにする
1・2・3の番号の下に、子どもの写真やマークを貼る
1番目から始めて慣れてきたら2番目、3番目に
- ・身振りや手振り、言葉で伝える方法を知らせる

ケース3「活動の切り替えができない」

～子どもの気持ち～

- ・「もっと遊びたい」
- ・「分からない」「できない」「嫌だ」「したくない」

～手立て～

- ・そもそも「お片付け」が分かってる？
 - ・何時終わるのか分からないと不安、次に何をするのか分からないと不安なので、スケジュールを活用し、予定を見てわかるようにする
 - ・タイマーなどを活用する
- 事前に「あと5分、このベルが鳴ったらおしまい」と伝えておく
- ・片付けも遊びの延長、どこに何を片付ければいいのか分かるようにし、「音楽が鳴っている間に片付けるよ」等、片付けも楽しむ
 - ・頑張れたことに対して、褒めたり認めたりする

ケース4「身支度ができない」

～子どもの気持ち～

- ・「どうしたらいいの？」
- ・「どこに足をいれたらいいの？」
- ・「したいことがあるのに」「あっちもこっちも気になる～」

～手立て～

- ・決まった場所でする（ロッカーの前等）
- ・パーテーション等で囲い、外界の刺激を遮断する
- ・実物の写真等を使い、手順を知らせる
- ・できたら、その時すぐに褒める

※昼寝の時も落ち着いて寝る体制を整えるために
パーテーションは有効

ケース5「集中出来ないとき」

～子どもの気持ち～

- ・「うるさいなあ」音が気になる
- ・「あっちもこっちも気になって仕方ないよ」周りにある物が視界に入ってくる
- ・「何時になったら終わるの」終わりが分からない
- ・「何をするのか分からないよ」活動が分からない

～手立て～

- ・刺激をなくす環境構成をする
- ・課題や活動にその子の好きなことや興味の持てる工夫をする
- ・注意がそれたら、その都度戻す働きかけをする
追いかけるより、徐々に好きな物を見せたり、声かけや椅子を見せて
戻ってこれるように働きかける。

理解や発達を促す上手な援助のために

- ・否定的な声かけはしない
- ・反応を待って援助する
援助が多すぎると、子どもは援助に頼ってしまい指示待ちになったり、脱力、やる気を失う。
加配が必要な子だと思い側に一人先生がつくとしても、何時もすぐ側にいてリーダーの先生の
言ったことを反復したりすると、前にいる先生に注目することができなくなる。
- ・今の子どもの理解の方法を知る
言語で理解できるのか、見た方が理解できるのか
(実物か、写真か、イラストか、文字か)
身体介助が必要なのか(手を添えるだけでいいのか、
できるところまでしてあげるのか等)

「嬉しい」「楽しい」「もっとやってみたい」を増やす

褒める基準を変える

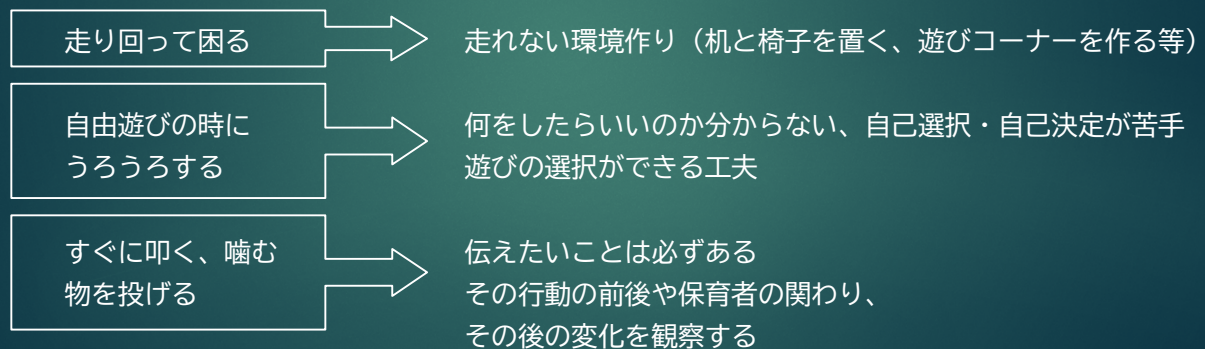
◎いきなり高望みしない

◎今できることからスモールステップで

◎子どもの行動を冷静に観察する

◎子どもの特性に合わせて

注意をしなくても良い環境を整える



1. 子どもの注意をひく → 側に行く、名前を呼ぶ
2. 視線を合わせる → 子どもの目線の高さに合わせる
3. 言葉は短くしてほしいことを言う、「ちゃんとして」では伝わらない
 - ・走らない → 歩こうね
 - ・うろうろしない → ここに座ってね
 - ・線をひく、マークを貼る、小さなフープなどを用意する
4. 深呼吸して、落ち着いてはっきりした口調で伝える
5. 指示の前に予告する → 「もうすぐ〇〇よ」と言葉やカードで示す
6. できないときは〈声をかける＋手伝う〉こともOK
7. 些細なことでも自分でし始めたらすぐに褒める

◎全身の感覚器官を使って遊ぶことは脳を育てること

【揺れや回転、加速度を感じる遊び】

やってみよう
こんな遊び!

●姿勢の保持やバランス力、爽快感アップ

ブランコ・すべり台・シーソー・マット運動・縄跳び・かけっこ・シーツブランコ
高い高い・ムーブメント・リトミック・トランポリン・肩車・バランスボール 等

【多様な平衡感覚を感じる遊び】

●身体の動きのコントロール、身体機能アップ

散歩・でこぼこ道・坂道・タイヤ渡り・しっぽ取り・手押し車・平均台
ペンギン歩き・だるまさんがころんだ・ロープ歩き・ゴーストアップ 等

【眼を働かす遊び】

●見たい物をしっかり見る

ボール遊び全般・的当て・ボーリング・間違い探し・迷路・
ビンゴゲーム 等

【よじ登り・しがみつき・踏ん張る遊び】

●筋肉刺激が十分に伝わり気持ち安定・集中力アップ

戸板登り・滑り台逆登り・相撲・うんてい・綱引き
おしくらまんじゅう・手押し車・手押し相撲・逆立ち 等

【三次元的な遊び・またぐ・くぐる】

●身体図式や運動企画が発達

ジャングルジム・アスレチック・縄くぐり・縄跳び・トランポリン鬼ごっこ・しっぽ取り 等

【圧がかかる遊び・指の固有感覚を使った遊び】

●自分の身体への気づき・眼と手の協調の発達

砂場遊び(トンネル・バケツ運び)・ボールプール・泥団子作り・
段ボール遊び・海苔巻き遊び・マッサージ・タッチング・型はめ・
パズル・プットイン・木工遊び・ねりけし・ブラックボックス 等

【意識的に感じる遊び（識別系を育てる）】

- 識別系が発達し、原始的にブレーキをかける

タッチング・（ブラシ、スポンジ、たわし等）・背中文字・マッサージ・ムーブメント
ふれあい遊び（一本橋・きゅうりもみ・ぞうきん）・手探り遊び 等

【色々な感触に広がる遊び】

- 好きな感触や安心感が過敏を軽減していく

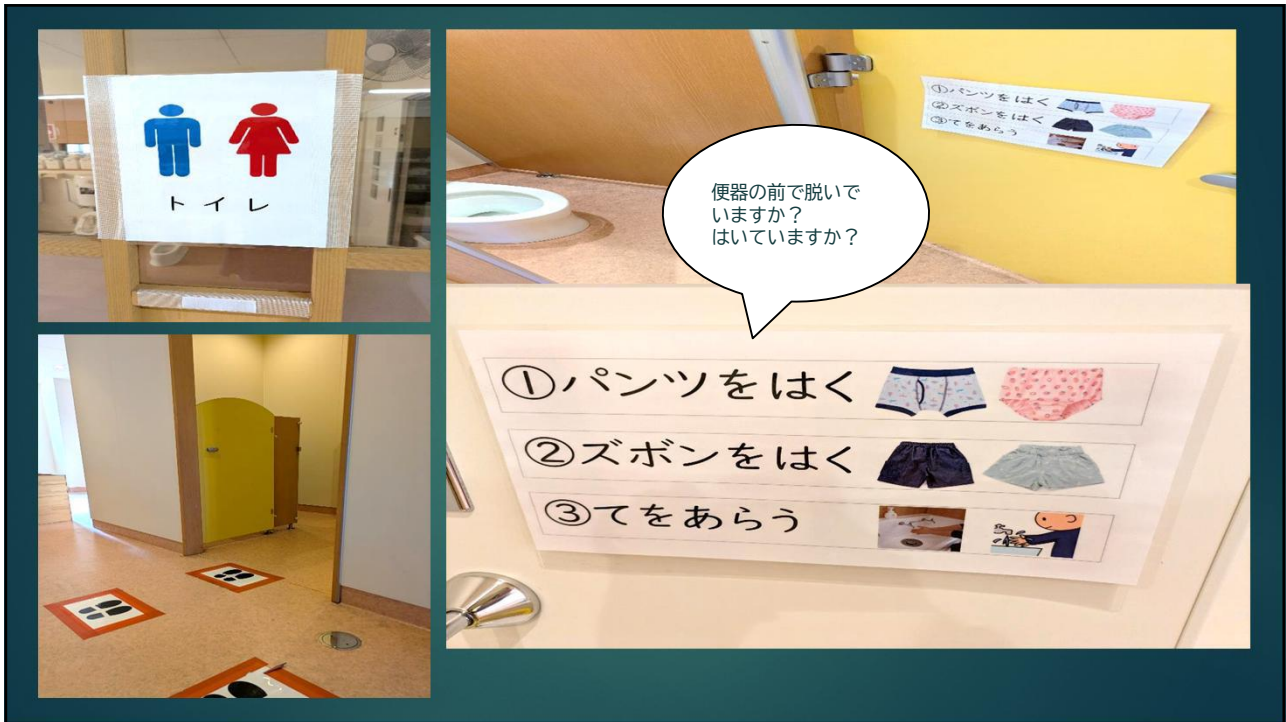
粘土・スライム・かんでん・小麦粉・片栗粉・米・ビーズ・豆・マカロニ・水・綿
気持ちのいい素材・砂遊び・紙遊び（破く・ちぎる）・ボールプール・お手伝い
（風呂洗い・食器洗い） 等

色々な感覚的な遊びは、日頃園で取り組んでいる遊びだと思う。
できる限り、物に触れ、色々な活動を経験できるように関わりを
継続していくことが大切。



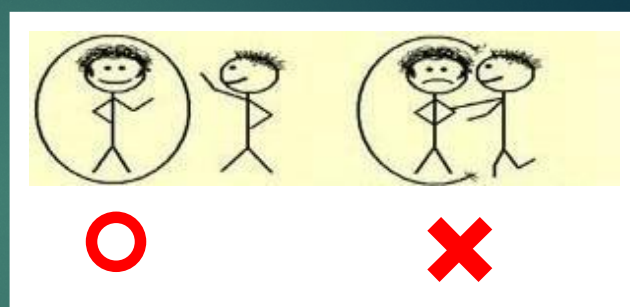




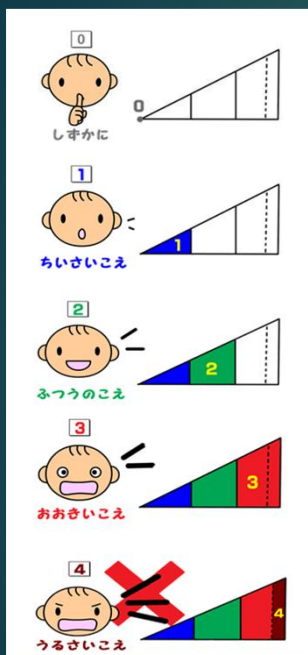




<マナーやルール>



してもいいこと、ダメなこと



<生活習慣>

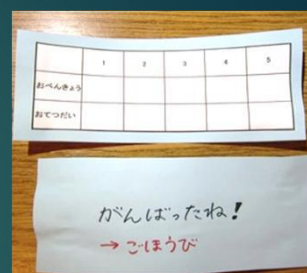
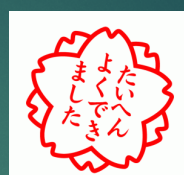


どこを持って着るのか
をわかるようにシール
で示す

上靴を左右正しく履くと
ハートの形が!
自分でマークが完成して
いるか確認できる



<「褒める」に見える形で示す>



「できた!」「褒められた」
で自己肯定感アップ

<時間の見通し>



時間の見通しは就学前では難しい

決まった音楽が聞こえると片付け、給食、お帰りのように、音と時間を組み合わせて伝えることで理解が進む

<活動の見通し>

夜のスケジュール



226:30



ゆうしょく



—6.55



しよつきをかたづける



227:00



てねび

あそび



8:30



1000



ばじゃま

はきみが














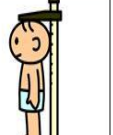
ねる

お家での困り感に合わせた
スケジュールを作って渡す

終わったスケジュール
を外して入れる、
おしまいボックス



おわりました

日	月	火	水	木	金	お休みや行事の事前予告
		1	2	3	4	5
						
		春休み	春休み	春休み	春休み	土曜日
6	7	8	9	10	11	12
						
日曜日	春休み	入学式		離任式	身長測定	



ちょうだい!



もういりません



おかわり
ください



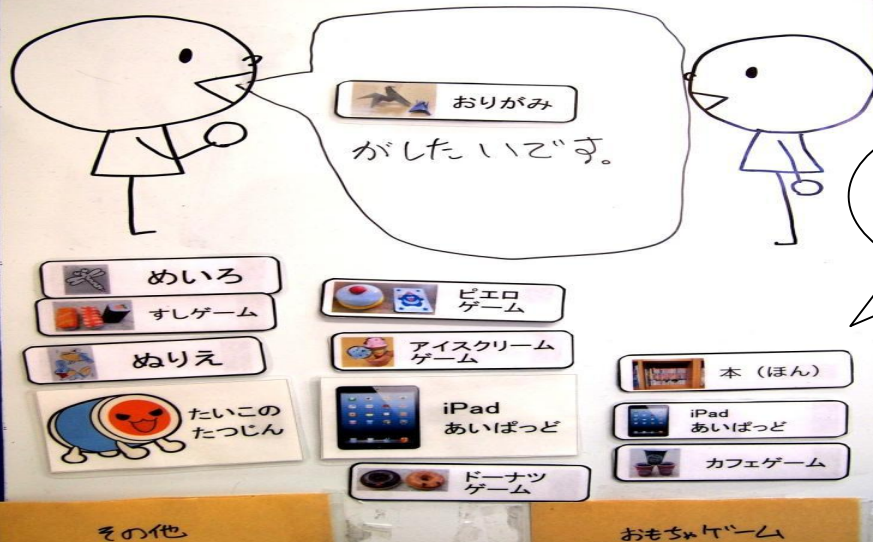
手伝ってください

手首を持つとか
手のひらにチョンチョン
とタッチする

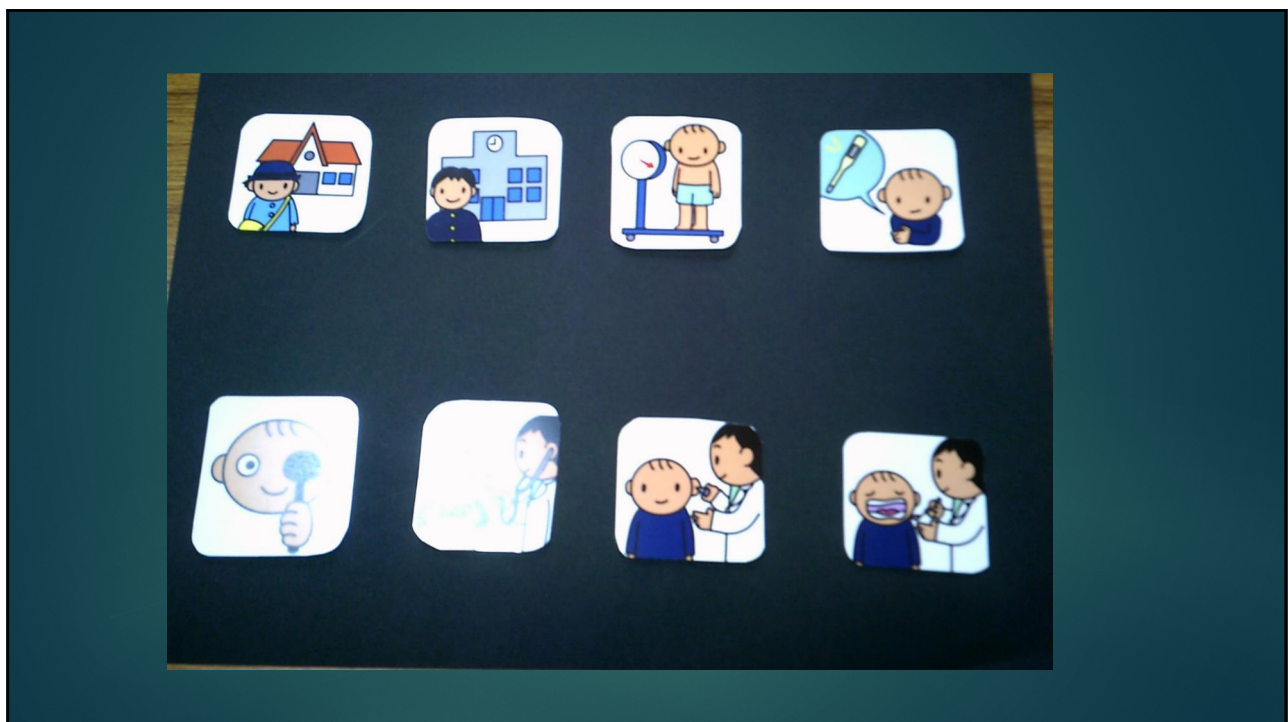
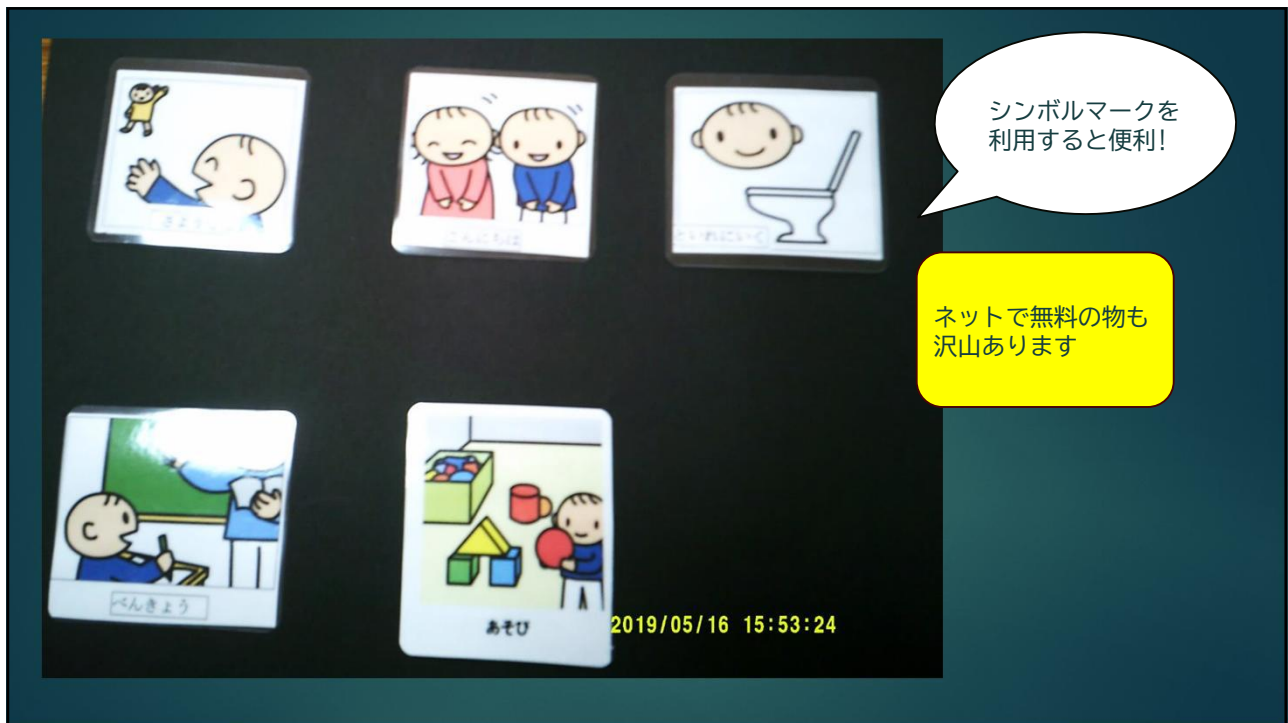
園の帰りに、いつも
と違うところに寄り
たいときに予告



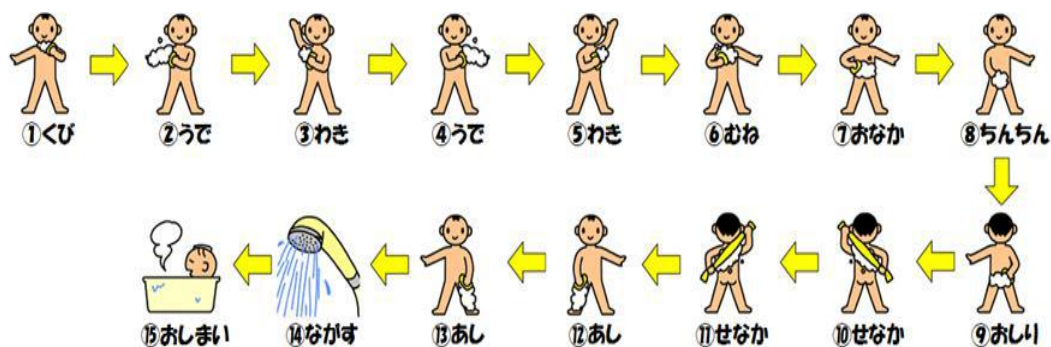
「イヤ」が伝えられる
ことはとても大事



文字が読める子は文字
と、写真やイラストで
遊びを選ぶ



からだをあらう



保護者の方から

「一人で風呂で体を洗うようになってほしい」と言われて作ったもの

風呂に貼ってもらっています。

子ども自身がイライラして癇癢を起こしてしまうこともある。

まだまだ未熟で感情のコントロールも難しいこの時期、落ち着くまで待つことが大切。

【考えられる理由】

自分の気持ちをうまく言葉で伝えられない

したいことがあるのに上手にできない

していることを止められた

お腹がすいている

疲れている 等

【そんな時どうする？】

まず本人や回りの子に危険の無いように安全の確保

抱っこしていると落ち着くのか、一人がいいのか、その子の落ち着く方法を選ぶ

落ち着いたら泣きやめたこと、保育者の話が聞けたことを褒める

頻繁に家でも癇癢を起こす場合は発達の偏りがあるのかと考えることも必要

その時は保健センターや家庭児童相談室、地域にある児童発達支援センター等に保護者と共に相談する

子どもの人権感覚の育ち「自己への尊厳」とは

子ども自身が自分のことを好きになり、大切にできること。

そのために子ども自身が、自分は価値のある存在だ、自分はなかなかいいところがある、自分は自分のことを決められる、という気持ちを持ち、不当な扱いをされた時にそれに對抗していける力を持つことが重要。

まずは自己有能感。愛されている、必要とされていると自分自身が感じられることが大切。

あなた自身はどうでしょうか？

保育って本当に難しいよね。子どもと向き合うだけでなく、保護者支援も大切な役割になっているけど、保護者に向き合うのは苦手、と感じている人も

きつっているのかなと思う。

毎日頑張っている自分を褒めてる？

「今日も一日、頑張ったわ。」と自分のことも褒めてあげることも大切。

2025年10月から保育現場における不適切保育(虐待)の通報義務が課されています。子どもを見るとき「マイナスの捉え方をしている自分はいないかなあ」と常に考えることが大事。対応に慣れてくる中で、そんな気持ちを忘れてしまわない。行事に追われて保育を進めていないか。

良い保育、良い計画って何なのか？

上手に計画を作れるってどんなことなのか？

まずは自分自身の心と向き合い、人を育て関わる仕事を選んだことの意味を常に考え生活していくことが大切。

そして保育を実践していくとき、特に各領域の遊びは保育の中の一部として切り取って行っているのではなく、保育の全体の計画の中で絡み合っているんだという意識が大切。

自分の関わりや声のかけ方が適切なのか、周りの子ども達にも「できない子」という気持ちをうえつけていないか

子どもの育ちを考える。一人ひとりの成長とクラス全体の成長。
 クラスの子どもたちの様子をしっかりと観察し、どんな子どもに育ってほしいのか、その為にどんな環境を準備したらいいのか、子どもたちが「もっとしたい」「もっと知りたい」「もっと関わりたい」と心を動かすものはなんだろう？と考えることが大切。

保護者と離れて一日の大半を過ごす園での生活。
 園の環境や保育の内容、保育の計画を考えることはもちろん大切。
 乳幼児期は将来にわたる人間形成の基礎を培う極めて大切な時期であり、この時期に一人ひとりの子どもの人格や個性が尊重され、人権尊重の芽生えをはじめとする豊かな人間性が育まれることは、その後の成長にとっても重要。

保育者の都合で進める保育になっていないかを常にチェックする

○今日はこれとこれと…と自分なりに計画を立てているが、その日の子どもの様子によっては臨機応変な対応が必要
 自分の決めたスケジュール通りに進めようとしていないか。

○苦手なことを渋っている子
 「早く」「できないなら後ろに行って」「〇〇ちゃんは頑張ってるのに」等、言っていないか。

○「いや」「したくない」「こわい」等、ネガティブな感情を表出することが苦手な子
 無理強いをしていないか。

○集団生活の中で、話を聞けない子に「話を聞かないなら、できないよ」「しないなら、あっちに行って」等の言葉をかけていないか。

忙しく日々追われている。保育士が足りない等、色々なことが報道されている。
「子どもや保護者に寄り添い、思いを受け止めて」と、もちろん理解している。

でもまず、自分自身を大切にしているのか、管理者は先生達を大切にしているのか。
「毎日園に来るのが楽しみ」と子ども達に思ってもらうには、まず先生達がそんな
気持ちで働けているのか。

多種多様な子どもや保護者に向き合う毎日の中で、一人だけが頑張っているでも良い
保育はできない。

園の職員、それぞれが自分の希望ややりたいことを優先しても、
良い保育はできない。

それぞれの先生方の良いところを見つけ、チームで支え合う事で
園の力がついてくる。

それを信じてまた明日からの保育に向き合っ
てもらえることを願っています。

ご視聴、ありがとうございました。



参考文献

保育所保育指針(平成二十九年三月三十一日)(厚生労働省告示第百十七号)
保育所保育指針の改定について(平成二十九年六月)
保育所や幼稚園等における 虐待の防止及び発生時の対応等に関するガイドライン
こども家庭庁 文部科学省 令和7年8月改訂
「人権力を育てる指導計画」 特定非営利活動法人ちゃいるどネット大阪
「感覚遊び・運動遊び」木村順/講談社
写真提供協力園 社会福祉法人遺徳会 児童発達支援センター和泉はつがの園